



2020年9月20日敬老感謝礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

『祈りに答え慰め働かれる神様』

説教者: 鄭南哲牧師

聖書: エレミヤ書32章38-33章3節/暗唱聖句: エレミヤ書33章3節

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も皆お元気でしたか。大分秋の青空が見えて来て、朝晩秋風がそよそよと吹いて来て良い感じがします。国では、明日が敬老の日祝日ではありますが、本日短くても我らの教会に神様が許され、導いて下さって共にいらっしゃる教会のお年寄りの方々の存在に改めて心から感謝し、尊敬致します。コロナウイルスの影響が続いている中、何よりコロナの中で、特に高齢者の皆様お一人お一人が今年もここまで守られ、今日も礼拝に共に集われていらっしゃることを心から喜びつつ、感謝致します！残りの今年中にも主がお年寄りの方々、お一人お一人と日々共におられ、日々健康でありますように、日々主と交わりつつ、教会の家族ともちゃんと繋がっており、よく分かち合い、祈りが答えられる幸いな日々が続けられますように神の祝福を心からお祈り申しあげます！アーメン！

<1. クリスチャンなのに、挫折したり、絶望する時がある？>

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

イエス・キリストを信じているクリスチャンでも挫折したり、絶望に置かれると思いますか。とつても立派な信仰をもっているクリスチャンでも危機に直面し、不安で、疲れ果ててしまう時があると思いますか。今年もここまでこのような不安や苦しみや疲れを経験された方々はいないのでしょうか。私は人生の中、私たちクリスチャンであってもそのような時をきつと直面する時がいくらかもあると思っております。

今日の聖書本文となるエレミヤ書に出ている預言者エレミヤがまさにそのような状況でした。

神の預言者エレミヤは、紀元前626年頃、イスラエルの南ユダエルサレム城が陥落(586BC)まで約40年間、神の預言者として立てられ、用いられた人であります。彼が働いていた時代は激動の南ユダの滅亡の直後でした。つまり、ヨシヤ王(31年間)、エホアハズ(3ヶ月)、エホヤキム(11年)、エホヤキン(3ヶ月)、そして南ユダの最後の王であったゼデキヤ王11年、つまり、イスラエルの南ユダ王国がバビロンのネブカドネツアル王に敗北される時まで活動しました。

神の召しを受けて、神によって選ばれ、神のお言葉のメッセージを正直にそのまま語った偉大な預言者エレミヤでしたが、今日の本文33章1節に書かれているように、現実には「監視の庭」に閉じ込められていました。つまり、外で出かけられないよう監禁されていたことが分かります。

当時、神の預言者エレミヤは正直な預言をしたことによって王様から始め、イスラエルのすべての祭司たちや、民たちから嫌われました。続けて生きておられる神の前で、偶像崇拜と悪を諦めないで、繰り返しつつついていたイスラエルのユダの民たちでした。何度もエレミヤを通して、神の御言葉を聞き、神の前で悔い改め、罪から離れ、神に立ち返れば、神は彼らのすべての罪を赦し、守って下さると言われても、心頑なになって無視し、従わなかっただけではなく、多くの神の預言者たちを殺し、今のエレミヤも憎しみ、殺そうとしながら、監禁されていた状況であります。

それに、神は、厳しい裁きと懲らしめがまもなく訪れ、バビロンに捕虜として連れられていく事を預言したわけです。彼の預言の通り、バビロンがエルサレムを攻撃し始めました。その時、エレミヤは彼らにもう遅いので、抵抗しないで、降伏するようにと言いました。エルサレムが敗亡される10年前、エレミヤは部族と(エレミヤ27:1-11)ゼデキヤ王(エレミヤ27:12-15)と、その民に(エレミヤ27:16-22)バビロンに仕えるようにと進めました。バビロンに対抗するなら、バビロンによってみんなが滅ぼされるが、降伏すれば滅亡だけはそのがれると言ったのです(エレミヤ27:1-8)。

これによって、エレミヤは同じ民族のユダ民族にひどく非難され、バビロンと内通(ないつう)した者でイスラエルを裏切った者、敗北主義者、偽り預言者、民を呪い殺すべき者のように非難され、苦しめられました。預言者エレミヤはただ神を愛し、神に従っただけでした。そして、イスラエルの民を自分の命のように愛したゆえに、どんな苦しみと誤解があっても、涙を流しながらもイスラエルの民の為に献身的に働いた結果、むしろ、さらに苦しめられ、侮辱を受けるばかりでした。

我らの人生の中でも、神を愛し、信じ従ったのに、結果、すべて祝福され、物事が全てうまくいかず、むしろしばらく苦しめられ、誤解され、落胆し、挫折してしまう時もあります。

素晴らしい信仰の人だと言われたジョン・ジョエートという人の自伝にこのような告白が記録されています。

“みなさんは私の人生には波なんかはないと思われたかも知れませんが、みなさんは私がいつも喜びを失わず、勝利の日々をすごし、ずっと成熟への道を前向きに歩んで行くのだと思われたかも知れませんが、それはほとんどない話です。時々私はものすごく疲れ果てている自分を見ます。今までどれほど、心の奥底からみだれている自分を見て、絶望と無気力感に陥ったのか数え切れほど多くありました。”

使徒パウロもほぼ似たような告白をしています。第二コリント人への手紙1章8節をみてください。「兄弟たち。アジアで起こった私たちの苦難について、あなたがたに知らずにおいてほしくありません。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。」ここで使徒パウロが使った「苦難」という単語は「非常に激しい圧迫がかけ

られて押さえつけられている生きる望みも気力もまったく失っていた状態」を意味します。9節では見てみましょう。
「実際、死刑の宣告を受けた思いでした。」というの、ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。という意味でしょう。自分の人生がもうこれで終わってしまうと思った告白でしょう。人生の歩み途中、日々の生活の中で我らも、いろんな理由と事情によって激しい圧迫を受け、無気力になったり、疲れ果ててもう生きる自信と気力を失ったり、まさに四方からふさがれていたエレミヤのように人生のもどかしさと悔しさ、挫折を経験してしまう時があります。
みなさんは最近、いかがでしょうか。お年寄りの方々は最近どんな思いをもっていらっしゃいますか。その時に、みなさんはどうされますか。

＜2. すべてを知っておられ、慰められる神様＞

その時に、我らに必要なのが、何か大きな、大したことよりも、慰めの一言、慰めてくれる小さな配慮ではありませんか。身近な家族や牧場の家族からその慰めを受ける時もあると思いますが、まずは、その時、私たちはその中にもあっても私たちを慰めてくださる父なる神様を見出し、だれより、みなさん自身より、全てを知っておられる神様からの慰めを受けなければなりません。それで、自分自身の大切な存在、自分だけに与えられているかみ大切な使命と我らが信じている父なる神様は我らを慰めて下さるお方であられるのを聖書ではよくあらわし、教えて下さっています。
エレミヤ書とエレミヤ哀歌書で、預言者エレミヤは‘涙の預言者’とも言われるほど、エレミヤはとても心の優しく、弱い人であり、感情の豊かな人であることが分かります。そんな彼が人々からの脅かしと苦しみと悲しみ環境の中で、絶えず涙を流しながら神の御言葉を伝え、祈りつつ神の働きを全うすることが出来たのはなぜでしょうか。
今はしばらく厳しい状況と懲らしめを受けることになっても、エレミヤが祈るたびに、汚れて、足りなくて、弱くても、変わらない神の愛と御約束の確信を通して、神の慰めを絶えず頂いたから、自分の人生の使命の道のりを全うすることが可能だったと信じます。

神はエレミヤにこのように慰め、決して捨てない、しばらく懲らしめられても必ず、イスラエルの全民を癒し、回復させ、ついに幸せにさせる神の計画と御心を教えてくださいながら、エレミヤが絶望と挫折に陥らないように、最後まで使命を全うするように支えて下さいました。「38彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。」「40わたしが彼らから離れず、彼らを幸せにするために、彼らと永遠の契約を結ぶ。」「41わたしは彼らをわたしの喜びとし、彼らを幸せにする。」「42まことに、主はこう言われる。‘わたしがこの大きなわざわいのすべてを、この民にもたらしたように、わたしは、今彼らに語っている幸せのすべてを彼らにもたらす。’」「33:33『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』」

わたしたちが信じている父なる神様は、我らの心と全ての状況をだれより、知っておられ、我らを慰めることが出来るお方です。第二コリント1章3節です。「私たちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。」パウロは今まで背一杯頑張ってきたうちにげいしい苦しみ、挫折を感じていた時、彼が受け、体験したのはまさに神の慰めでした。その神様はイエスキリストの父、慈愛の父、すべての慰めの神様だったのです。

辛い状況の中で、全てをおいぬけるもっと大切な力、それは“神の慰め”でした！第二コリントへの手紙1章4節、6-7節の御言葉です。「4神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。これで、私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができるのです。6私たちが苦しみに会うとすれば、それはあなたがたの慰めと救いのためです。私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。7私たちがあなたがたについて抱いている望みは、揺るぎません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知っているからです。」

疲れ果てて、自分の力ではどうしてもできなくて苦しい時、人々は泣きます。悲しくて泣き、つらくて泣き、苦しくて泣き、さびしくて泣きます。実際、我々のイエス様もこの地にいらっしゃった時、苦しみ、疲れ、悲しみの故に、泣いたときがありました。ヘブル人への手紙 5章7節によると、「キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことが出来る方に向かって、大きな叫び声と涙をもつて祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。」と書かれています。イエス様はこの地にいらっしゃるとき祈るたびに苦しみもだえて叫んだときがありました。イエス様は神様に嘆きと涙と願いを申しました。ですから、嘆きと涙をもつて願いを知らせる人々を慰めてくださることができます。そして、その祈りに答えることができます！

イエス・キリストこそ、最悪の苦難、痛み、疲れ、人の裏切り、侮辱、避難、迫害、からだの痛みなどすべてを経験されたお方です。使徒パウロが経験した苦難とは比較すらできないほど苦難を受けられた方がいます。だれでしょうか。そうです。我々の救い主なるイエスキリストでした。旧約のイザヤ預言者は来られるイエス様の姿をこのように預言し記録されています。「彼(イエスキリスト)はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。(イザヤ書53:3)」
だれよりも神の御子であられるイエスキリストがこの世に来られ、ほぼ毎日多くの群衆に囲まれ、いろんな人々と関わりま

した。時には人々から攻撃を受けたり、誤解されたり、無視されたり、蔑まれました。人に裏切られ、たたかれ、多くの悲しみと疲れをも経験されました。それだけではなく、イエス様はこの地上にいる間、家もなく、時には路宿するまで経済的には貧しかったし、苦しみました。だからこそ、イエス様は人々の悲しみや苦しみをよく知っておられる方です。“病”とは体の弱さによる病気や苦しみを意味します。イエス様は苦しみの中にあるみなさんの気持ちと状況をよく知っておられます。ですからその方に慰められない人はだれもいません。イエスキリストは十字架の苦難を通して私たちの慰めと救い主となってくださいました。イエス様は泣いている人々を慰めてくださいます。涙を流している人の涙を拭いてくださるお方です。

我々が信じる神様はこの地上の万物と人間を造られた創造主です。神様がこの涙を我々の目に置かれたのは神様がその涙がどんな意味であるかよくご存知であるという意味です。黙示録を黙想している間、本当に慰めとなった言葉があります。ヨハネの黙示録7章17節をみてください。「御座の中央におられる子羊が、彼らを牧し(牧者となり)、いのちの水の泉に導かれる。また、神は彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださるのです。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！日々神様の慰めを實際受けていらっしゃいますか。我々が信じている神様は、慰め主であられます！慰めの主は、決して涙で終わらせない、慰めを越えて、また明日への希望と期待、信仰の勇気と力を与えて下さいます。

<3. 涙と共に、切に祈る時こそ、神の慰めと癒し、回復の力を頂けます！>

今日の本文2-3節をご覧ください。神様はエレミヤにどのように語って下さっていますか。

「2地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。3『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』」

今日も生きておられる神の慰めと回復させる神の力を頂けるために、ただ一人でこっそり泣かないで、私の名を呼び求めなさいと言われていています！聖書には、神の御前に出て、神の慰めと癒し、回復の答えと御業を体験した人々は数え切れないほど大勢の信仰の人物たちがいます。

①絶望的な時、神に祈り守られ、回復の恵みを体験したヒゼキヤ王

旧約聖書にイスラエルでよく真面目に頑張っていました、突然死の病にかかってしまったイスラエルの南ユダ13代目の王ヒゼキヤ(ヒゼキヤの名の意味:神は我が力)の内容が書かれています。彼は25歳に王となってから、まるでダビデ王のように、神を愛し、と神の御言葉を徹底的に信じ従った結果、神に祝福され、大いに用いられた信仰の王でした。

「第二列王記18章3節:「彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、主の目にかなうことを行った。」

しかし、彼は王になって14年目の時に、大きな絶望的な試練が訪れます。アッシリア国の大軍18万5千人がエルサレムに攻め上って来ている厳しい状況に置かれたことでした。その時、ヒゼキヤ王は当時預言者だったイザヤと共に全イスラエルの民と共に神に悔い改め、神に切実に祈りながら、イスラエルの歴史に記録されるほど大きな勝利を収め、感謝と喜びがあふれていた直後でした。次はヒゼキヤ王自身に、死を待つしかない病にかかったことが分かりました。このぐらいい生身の連続の試練と、命が脅かされる戦いが続けば、普通絶望で人生の諦めようとするかも知れませんが、その時、ヒゼキヤ王は絶望と悲しみ中に独りぼっちにならず、また、すぐ神様の前に出て、切実に泣きながら祈りはじめます。

その祈りの様子が列王記第二20章2-3節に書かれています。

「そこでヒゼキヤは顔を壁に向けて、主に祈った。3「ああ、主よ。どうか思い出してください。私が、まことを尽くし、全き心をもって、あなたの御前に歩み、あなたの御目にかなうことを行ってきたことを。」こうして、ヒゼキヤは大声で泣いた。」

すると神様からの応答は何ですか。列王記第二20章5節をご一緒に読んでみましょうか。「引き返して、わたしの民の君主(くんしゅ)ヒゼキヤに告げよ。あなたの父ダビデの神、主は、こう仰せられる。『わたしはあなたの祈りを聞いた。あなたの涙も見た。見よ。わたしはあなたをいやす。三日目には、あなたは主の宮に上る。』

神様はヒゼキヤの祈りを聞いた！その涙を見た！と言われ、そして、彼の命を15年も延長させてくださいました！

ヒゼキヤ王は、いつも絶望的な状況、攻められ、苦しんでいる時に、いつもまず、神に祈りに切に祈り、神の癒し、神の助けを頂き回復され守られていたことが分かります！

もちろん、今日我らも祈ると、ヒゼキヤ王のように祈って15年間寿命が伸ばされたように、神に祈りを通して、奇跡的な神の癒しを体験する場合も、ありそれを絶対信じておりますが、祈りと、必ずすべての人の寿命が15年間伸ばされるわけではないと思います。しかし、神様がヒゼキヤ王の祈った時、彼の病をやし、その命を15年間伸ばして下さったと意味は、神様から彼の人生に与えられてすべての責任と使命を最後まで果たすことが出来るよう神様が助け、守り、回復させて下さったことは、今日の我らにも必ず変わりなく、神に祈り、頼る全ての人々に与えられると信じます。体の弱さを覚え、疲れ、苦しんでいる時に、もちろん、薬や治療も受けながらも、是非みなさんの痛んでいるところを持って神を信じ、神に切に祈って見て下さいます。ヒゼキヤ王を慰め、彼を癒し、最善を成して下さった父なる神様は今も生きておられ、みなさんと涙と祈りを見ておられ必ず助け回復の恵みを与えて下さると信じます！アーメン！

また、旧約聖書第一サムエル書1章には、だれにも言えない家庭の事情の為、耐えられない苦しみをかかえながら、激しく泣いていた女がいました。だれですか。そうです。みなさんがよくご存知のようにハンナという女が登場します。ハンナという女は子どもを生めませんでした。そういうわけで夫は別の女を家に連れ込み、その女から子どもが生まれると、さらに、その女から無視され、侮辱を受けました。その悔しさ、悲しみ、裏切られた心、自分の力ではどうしようも出来ないもどかしさの中、ハンナが選んだ方法は神様のみに出て行って祈り、涙で嘆くことです。

「ハンナの心は痛んでいた。彼女は激しく泣いて、主に祈った。(サムエル記第一1章10節)」

その結果はどうでしたか。神様は一人の女の涙の祈りをごらんになり、彼女を慰めて下さっただけでなく、実際人の思いと期待を超えてその祈りに聞き入れてくださいました。その涙の祈りの後、ハンナからイスラエルの民族を導く偉大な指導者サムエルを生まれさせてくださいました。神様はハンナの涙を拭き去ってくださり、真の慰めを許して下さいました。神様は決して聖徒の涙の祈りを涙で終らせる方ではありません。かならず涙を拭き取ってくださり、その切なる涙の祈りを聞いてくださる方であることをみなさんも是非信じて下さい。

②罪に倒れ、悔い改める者の祈りに、赦しと慰めを与えて下さる神様

エレミヤ書で、神様はエレミヤを通して、いくらひどい罪を犯し続けて来たとしても、神に立ち返り、悔い改める者に神は赦し、また慰めと回復の希望をも与えて下さるメッセージを続けて与えて下さっていることが分かります。

旧約聖書の中、一番イスラエルで素晴らしい信仰を持って尊敬されていた王はだれかとすれば、当然ほとんどの方々がダビデ王を思い出すでしょう。しかし、いつも神様の御前で正しく、頑張っていたダビデ王でしたが、罪の誘惑に負けてしまい、罪を犯しそれを隠していた時、神様はナタン預言者を通して彼の罪を叱られ、指摘されました。その時、ダビデ王は自分の罪を否定せず、神様の御前で涙となげきを持って寝床がぬれるほど二度もその罪をおかさないうに、涙と共に真剣に悔い改めの祈りをささげていたことが分かります。

詩篇6篇6節でダビデ王は「**私は私の嘆きで疲れ果て、夜ごとに涙で私の寝床(ねどこ)を濡(ただよ)わせ、ふしどを大水で押し流します。**」このように心から悔い改めの祈りによって人生が生まれ変わり、赦され、回復されたダビデ王は我らにも弱くて、罪に失敗したり、倒れる時に、同じ状況で苦しんでいる人に対して正直に神の前で罪を告白し、悔い改め祈る者を赦し、救って下さることを証しています。

「神へのいけにえは、砕かれた霊。打たれ砕かれた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。(詩篇51篇17節)」

神様はだれに近づきますか。罪を犯したことにより、心が砕かれる者とともににおおられ、たましいが砕かれた者を救われます。「17苦しむものが叫ぶと、主は聞かれ、そのすべての苦難から救い出して下さる。18主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、霊の砕かれた者を救われる。(詩篇34篇17-18節)」

愛するみなさん！神様を信じ、祈りの中で、キリストの慰めを受けている人々は、罪に失敗してしまう時があっても、決してその人生は罪のゆえに滅ぼされません。なぜなら、罪の中にいる我らをご覧になり、悲しんでおられる父なる神様が涙の中で心から悔い改める人々を慰め、新たな望みと力を注いで下さるからです。罪を犯しても心からの切なる悔い改めの祈りをささげない人は砂漠のサボテンのようになります。雨が降らないところで育てられるサボテンはとげしか残りません。

愛する信仰の家族のみなさん！神の前では早すぎも、遅すぎもありません。(God's time is not too early, not too late!)という言葉があります。神の前で全然遅すぎる時はありません。神の前で、みなさんの心の悩みや苦しみをずっと飲み込んでおかないで下さい。耐えようとししないで下さい。今のみなさんの心を神の前に祈りを持って打ち明けて、さらけ出して見ませんか。切に祈り、神に頼る者を神様はご覧になり、必ず助けて下さいます！そして、必ず、みなさんのすべてを知っておられる神様がみなさんを慰めて下さいます！

神様の前ではありのままで大丈夫です！泣いても大丈夫です！ありのままで大丈夫です！

あるクリスチャンの癌の専門医者が言われましたが、涙は神様が人に与えて下さった自然治療剤である。しかし、涙で終わらせないで下さい。そのみなさんの涙と共に祈りを持って父なる神様の慰めを受けてください。人の前だけで終わらせないで下さい。神様の御前で悲しみ、祈りながら、神の前でみなさんの涙を流して下さい。必ず神様の慰めを頂けると今日の御言葉の約束を忘れないで下さい。その人たちには神様の慰めだけじゃなく、また日々生ける力を頂けます。必ず主は回復の人生、そして、逆転の恵みの人生として新たに人生を進み行ける信仰の勇気と希望で満ちるように主は答えて下さると信じます！教会のお年寄りの方々はじめ、教会の家族みんながどうか、祈るみんなに神の豊かな慰めの御手が共にありますように切に祈ります。

“すべての慰めの父なる神様！どうかこの季節、涙とともにあなたに心をさらけ出し、祈れる力を注いで下さい。私たちの口に祈りのことばを授けて、神の御前に立たせ、どうか祈らせてください。祈るたびに、天の神の慰めで心が満たされ、日々生ける恵みと回復の力を頂けるよう我らを助けて下さい。神様の慰めを頂き、励まされ、これからの私にしか出来ない神様からのすべての使命と役割を全うできるよう私たちを強め、祝福し、導いてください。救い主なる主イエスキリストの御名によってお祈り致します。アーメン!”